

30年前のNO-DIG展示会への 出展参加とパルテムの展開

八木 伊三郎

YAGI Isaburo

芦森工業(株)
顧問



芦森工業における消防用ホースの製造には、古くから反転法と呼ばれる方法が採用されている。消防ホースの製造では、円筒状のジャケット（消防用ホースは、内側が被膜、外側が織物となっており、被膜をスキンと呼び、外側にある織物をジャケット（上着の意味から）と呼ぶ）をラテックスゴム液に浸漬する。すると、内側に織物、外側に被膜の材料ができあがり、その内外面を反転して（ひっくり返して）消防用ホースを製造している。

その反転法をガス導管、水道管、下水道管または農業用水管の管更生工法に用いようとしたものがオリジナルのパルテム（Pipeline Automatic Lining SysTEM）またはホースライニング工法（ガス分野では反転シール工法、ペットネームをパルテム、水道、下水、農水分野ではホースライニング工法と呼ぶ。海外では、分野を問わずパルテムと呼ぶ）である。初期のパルテムは、1978年から芦森工業株式会社と東京ガス株式会社との間で共同開発がなされ、1981年から実用化が始まっている。

芦森工業では、パルテムの世界への普及を考え、まず、1985年のアジア太平洋地域会議「ウォーターソウル85」、1986年の世界水道展「ローマ水道展」に出

展参加した。

1986年にISTTが設立され、1987年4月には非開削工法の世界的な会議・展示会が英・ロンドンにおいて世界35カ国から2500名の参加で行われた。そのNO-DIG87ロンドンにおいて、東京ガスから『反転シール工法（パルテム）』の発表がなされ、質問などを通してイギリスの工事会社と知り合うことになった。その当時、ブリティッシュガス（当時は国営）において中圧導管の大規模な補修計画が持ち上がっており、その受注をすることができた。ブリティッシュガスでの管更生工事は長期間続けられることとなり、芦森工業では、1989年に欧州芦森株式会社（本社ロンドン、後に芦森インターナショナル株式会社と社名を変更）を設立する。芦森工業にとって、NO-DIG87ロンドンは大変意義深い展示会であった。その後、世界各地で開催されるNO-DIGに積極的に参加することとして、NO-DIG88ワシントン、NO-DIG89ロンドン、NO-DIG90大阪、NO-DIG90ロッテルダム、また、国別に開催されるNO-DIGの展示会に出展参加し、積極的に論文発表なども行っていた。

非開削に係る関係者が集まるため、NO-DIGが海外における商談につながる“Good Chance”となっている。



写真-1 ロンドンでのパルテム工事



写真-2 ボストンでのパルテム工事



写真-3 ストックホルムでのパルテム工事